



すべてはその手から

SDGs  
未来都市

妙高

# 地域づくり通信

NO. 16

妙高市地域づくり協議会は、市内53の自治会や町内会、地区協議会などで組織され、『住み慣れた地域で安心して暮らし続ける持続可能な地域コミュニティの構築』を目指しています。

当協議会では、令和5年度の目標に『誰もが安心して暮らせる地域を目指し話し合いと支え合いを進めよう』を掲げ、共助活動や地域づくり活動の活性化を図るために、女性や若者の地域参加を進める機会の提供や、学習機会の提供、地域同士の交流促進に取り組んでいます。

## 「地域づくりで輝く女性～パートナーシップで目標を達成しよう～」

### 地域づくり取組発表会 令和5年7月29日

地域づくりで輝く女性をテーマに、市内で活躍している、末広カフェ、あのねcafé、関山宝蔵院御膳研究会の3団体の皆さんから活動発表をしていただきました。

当日は、約80名の皆さんが来場。3団体の皆さんの活動を聞き、自分の地域で実践するための「きっかけ」や地域や団体同士の「つながり」を考える時間になりました。

後半のパネルディスカッションでは、3団体の皆さんがパネラーとして参加し、今後の展望や思いを話していただきました。それぞれの活動には、いろいろな課題があるものの、楽しみながら思いを「カタチ」にし活動していることが、伝わる発表会になりました。



「末広カフェ」は、末広町町内会の活動で地域の居場所づくり活動です。

地域の荒廃農地を活用し、野菜を育て、育てた野菜をみんなで調理していただきます。

「食は人を結ぶ」をモットーに活動しています。



「あのねcafé」は、妙高高原を中心に活動しているママサークルです。地域で子育てをしたいという思いのもと、毎年夏に開催する「妙高高原こどもまつり」をメインに、地域で活動する市民団体の皆さんや事業所の皆さんと一緒にイベントを実施しています。



「関山宝蔵院御膳研究会」では、江戸時代に書かれた宝蔵院日記に記されたレシピを研究し忠実に再現しました。

将来的には、関山神社に来られた方に御膳が提供できるよう、「食の文化を通じて地域に貢献していくこと」を目標に活動しています。



発表していただいた3団体の皆さんの詳しい活動内容はコチラ



## ■「地域づくり座談会」（新潟県地域運営仕組みづくり支援事業）

地域コミュニティを維持していくためには、地域の未来を見据えながら、それぞれの立場で役割を担い、連携することが大切です。水上地区と新井南部地区では、未来を考える座談会として、令和5年3月から4回ずつ座談会を行いました。

### 水上地区コミュニティ推進協議会

水上地区は、地域づくりの推進を目的に、令和5年3月に第1回目の学習会を行い、今年度は3回、合計4回の「学習会&座談会」を開催し、中学生も含め約30名の住民の方々が参加しました。第2回の座談会では、「将来を見据えて地域に足りないもの・必要なものは？」をテーマに話し合った結果、5項目の課題にしばり、第3回の座談会で、それらの解決策等のアイデア出しを行いました。

#### 【地域に足りないもの・必要なもの】

- ①地域のつながりが足りていない！
- ②コミュニケーションの場や機会が足りていない！
- ③地域活動に参加する場・やり方の多様性がない！
- ④人口減少対策（空き家対策等）が進んでいない！
- ⑤マンパワーを確保していく検討が足りない！

#### 【実行するアイデア（上位7件）】

- ①フリマ・物々交換イベントの開催
- ②地域のお茶の間の開催
- ③水上コミセンの無料開放
- ④SNS（LINE等）の活用
- ⑤除雪応援の仕組みづくり
- ⑥地域活動の役職の見直し
- ⑦人材バンクと支え合い

第4回の座談会では、その上位7件に対して、「実行に向けた際に誰に参画・協力してもらうか!?!」について、さらにアイデアを出し合いました。

参加された方からは、「話し合いから相互理解や、違った考え方が参考になった」。中学生からは「地域をよく知る機会となって良かった」など、改めて地域でのコミュニケーションの大切さを感じました。

今後は、見えてきた課題に対して、地域が主体的に考え、少しずつ実行に繋がられるよう地域の活性化に向けて、引き続き話し合いが続けられます。



### 新井南部地区区長協議会

新井南部地区では、「安心して暮らし続けられる南部地域の存続」をテーマに掲げ、状況もさまざまな南部地域の集落で共通の課題を見つけ、事業化できることから始めていくために、見えてきた課題を地域全体に共有し、住民みんなに呼びかけ勉強会や話し合いづくりの場を開催する「南部未来塾事業」を発足しました。

南部未来塾事業「第1回みらいづくり座談会」が新井南小学校で開催され、中学生から70代までの幅広い世代の30人が参加し、ざっくばらんに話し合いながら地域の将来について考えました。その中でも特に関心の高かった課題は、「高齢者の暮らし」に関わることで、中でも「買い物」と「除雪」についての意見が多く出されました。

第2回、第3回の座談会では、この2つの課題をテーマに、安心して暮らし続けていくために必要なことについて、アイデア出しをしました。話し合いの中で、「普段からの緩やかな支え合い。顔の見える関係づくり」が大切だということがわかってきました。

第4回目では、雪国での暮らしを住民同士の共助で支え合う仕組みを深掘りし、「自分たちでできることは何か？」を考えました。「高齢化に伴い、今まで自分たちだけでできていたことができなくなってきた。これからは単体でやっていくのではなく、横のつながりで助け合っていく仕組みが必要」と意見が出され、今後も何か1つでも実験的に始めていくことができるように、話し合いを続けていきます。



# ■ 地域づくり勉強会

これからの地域づくりや新たな運営組織など、今後の地域での取り組みを参加者全員で考える勉強会を、町内会等と連携し、NPO 法人都岐沙羅パートナーズセンター事務局長の斎藤主税<sup>ちから</sup>さんを講師に迎え開催しました。

## 上町町内会 令和5年11月5日

「こどもたちを地域ではぐくむ」をキーワードに、上町町内会と隣接している栄町や中町など8町内会が集まり、地域づくり勉強会を開催しました。今回の勉強会は、上町町内会長が「地域内のこどもの数が少ないため、小学校区が同じである周辺の町内会と、こども会活動などを連携しながら出来ないだろうか?」という思いがきっかけとなり実現しました。

当日は約40名が勉強会に参加し、それぞれの町内会の現状や課題・思いを交流しながら話し合いました。

今回の勉強会が、町内会の枠を超えた、住民同士がコミュニケーションをとる機会となりました。



## 新井地区町内会長連絡協議会 令和5年7月1日

「これからの地域づくりとは!？」と題して、新井地区の町内会26団体で形成される新井地区町内会長連絡協議会を対象に、約40名が参加する勉強会が行われました。

勉強会では、新井地区の今後の人口推移が示され、これからの地域づくりは、今までの延長ではなく時代に即した進化が必要であること、何事も「やってみる」「試してみる」「だめならやり直してみる」ことが大切であるとの話があり、参加者は真剣に耳を傾けていました。



- 世代や性別、立場を超えた人たちが参加し、話し合う場づくりが、町内会・自治会の問題解決の糸口になるかもしれません。勉強会開催に興味がありましたら、地域づくり協議会 事務局へご相談ください。勉強会開催に向けた支援を行います。

## 地域づくりを SNS で情報発信

市内には、SNS を活用し、地域の情報発信を行っている地域があります。

地域活動の周知や活動報告など、SNS を通じて発信することで、地域に住む多世代の住民に周知や情報の共有が可能です。地域づくり協働センターでは、電子回覧板の利用や Instagram・Facebook などの SNS を地域づくりで活用できるよう支援しています。

**Instagram**

大鹿自治協議会  
原通自治会  
長沢地域づくり協議会

**Facebook**

矢代地域づくり協議会  
学校町町内会  
関山自治会

## ■ 地域の取り組み

### 大鹿 U ターン移住者交流会 令和5年12月8日



大鹿自治協議会では、大鹿地区に U ターンや移住をされた方々との交流会を開催しました。初の試みとなった、移住者の生の声を聞く機会に、主催者も新しい発見を感じていました。

大鹿自治協議会からは、大鹿の歴史や魅力の紹介があり、U ターンや移住をされた方々は、自分たちが選んだ、住み続けていく地域を深く知ることができました。参加者からは、「毎日きれいなロケーションの中、生活ができていて幸せ」、「すごく温かい地域だと感じている」と大鹿に移り住んだ感想を話してくれました。同協議会の望月会長は、「人口減少や高齢化が進む中だが、大鹿地域は元気でいたいと思っている。そのためには、待っているだけでなく行動しなくてはいけない」と、今回のイベントを企画。「みんなで地域を盛りあげていきたい」という思いのもと、大鹿の地域活動は続いていきます。



### 妙高高原スポーツフェスティバル 令和5年9月24日

妙高高原地域では、10地区が参加し「妙高高原スポーツフェスティバル」を開催しています。全11種目を地区対抗で楽しく競い合います。妙高高原地域ならではの種目、男子1200m・女子800mのチャレンジ持久走は、出場した人数でポイントが加算される競技になっており、子どもから高齢者までが参加しました。妙高高原中学校の生徒は、授業日として参加し、フェスティバルを盛り上げました。中学生は、種目の考案や競技種目の準備や片づけなどで運営にも参加しました。高齢化や人口減少が進み、単体の地区での運動会の実施が難しくなった地区も、地区対抗で参加できるフェスティバルは、世代を越えたすべての住民が楽しめる交流の場になっています。



### 地域づくり SDGs 交付金：地域パートナーシップ活動・地域で取り組む SDGs



#### 矢代地域づくり協議会

矢代地域づくり協議会では、「welcome 妙高♡welcome 両善寺プロジェクト ロッテの大田植え」を6月3日矢代地区両善寺の荒廃農地を利用し行いました。このイベントは、R&L連携推進室（両善寺）が、交流人口の拡大と地域の魅力を国内外に発信することを目的に開催し、ロッテアライリゾートの社員とそのご家族、地域の皆さん約30名が参加。参加者からは、「足が抜けなくて転びそうになった」、「田植えは初めてで、意外と難しかった」などの声があり、慣れない作業に苦労していました。R&L連携推進室：事務局長の小島さんは、「イベントを通して、地元企業との連携をより深め、地域の活性化につなげたい」と今後の展開を話してくれました。



#### 田口区

田口区では、地域住民の学ぶ機会を作るため、6月24日にSDGsに関する出前講座と、令和5年度から変更になったゴミの出し方や減量・リサイクルについての勉強会を開催しました。SDGsについて知識を深め、取り組みやすい内容を一人ひとりが考えることができる機会になりました。

